

電車とバスの博物館

電車・バス・飛行機の
シミュレータ体験ができる!

大人から子どもまで楽しめる体験施設。
たくさんの、のりものたちが、キミを待っているよ!



ミュージアム
ショップも
あるよ!

電車も!



バスも!



飛行機も!



開館時間

- 平日・土曜日
午前10時～午後5時
- 日曜日・祝日
午前9時30分～午後5時
※入館は午後4時10分まで

休館日

- 月曜日
(月曜が祝日・振替休日の場合は翌日)
年末年始(12/29～1/3)

入館料

- 大人(高校生以上) 100円
- 子供(小・中学生) 50円
- 6歳未満無料

お問い合わせ

TEL 044-861-6787
神奈川県川崎市宮前区宮崎2-10-12
<http://www.tokyu.co.jp/>

東急田園都市線宮崎駅改札出ですぐ!
※駐車場はございません。電車・バスをご利用ください。

※休館日、入館料などは、2013年9月現在の情報です。

めぐろ EYE'S

Vol.08



編集・発行
めぐろ観光まちづくり協会

T:153-0051 東京都目黒区上目黒2-1-3 中目黒GT地下1階
TEL:03(5722)6850 FAX:03(5722)6891 E-mail:staff@meguro-kanko.com
<http://www.meguro-kanko.com>

もてなし、もてなされ
楽しむところと活動
めぐろ EYE'S
Vol.08

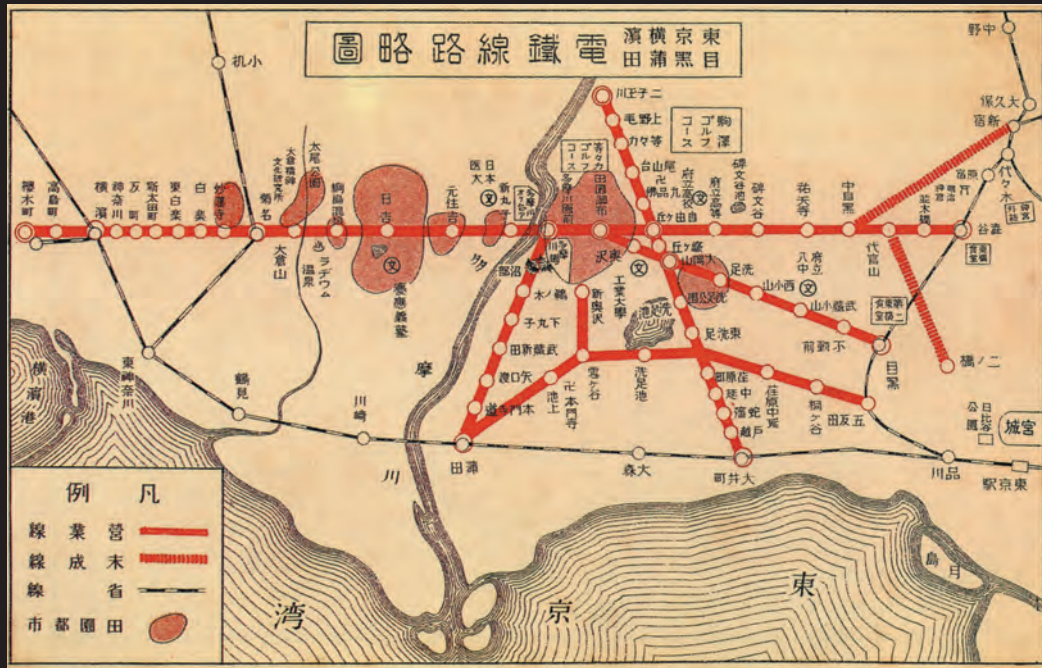


めぐろを走る東横線

めぐろ観光まちづくり協会
Meguro Tourism Association

「ワーイ、きたきた!」東横線電車に手をふる娘
一碑文谷公園前の踏切でー(昭和12年頃)
提供:めぐろ歴史資料館

地域歴史探訪



『東京横浜目黒蒲田電鉄線略図』目黒蒲田電鉄株式会社第24期営業報告より昭和9年当時の東京横浜電鉄と目黒蒲田電鉄の路線図です。

提供:めぐろ歴史資料館

めぐろと東横線の開通

〈目黒に東横線が走った!〉

目黒区内で最も長い距離を走り、この地の発展に大きな役割を果たしてきた東横線は、昭和2年、渋谷～丸子多摩川間が開通しました。私鉄の郊外電鉄のさきがけ、玉電の開通から20年ほど後のことです。

東横線開通以前には、実業家渋谷栄一がイギリスなど欧米の街を参考にして、自然を取り入れた農村と都市両方を備えた街「田園都市」を建設していました。この田園都市への交通機関として目蒲線が開業しました(大正11年)。ここで登場するのが五島慶太という人物です。

五島慶太はもともと鉄道院の敏腕官僚でしたが、当時招かれて武蔵電気鉄道で常務を務めていました。そして大正11年には、請われて開業したばかりの目蒲線(目黒蒲田電鉄)の専務も兼任。武蔵電鉄では、長年、東京と横浜をつなぐ路線を計画していましたが、その計画は資金難などで頓挫しかけていました。五島は目蒲線の専務となると同時に、その計画の実現にのりだし、瀕死の状態の武蔵電鉄を吸収、目黒地域を縦断する新しい東京横浜電鉄・東横線を走らせることとなりました。

〈沿線を文化的な住宅地へ〉

目黒区内には5つの駅が作られました。うち2駅(学芸大学駅・都立大学駅)に学校名がついています。これは、五島慶太ら

「めぐろと東横線」重要ワード

渋谷～丸子多摩川(現・多摩川)間開通

この昭和2年の開通の後、昭和7年高島町～桜木町間開通をもって東横線全線開通となりました。

玉電

玉川電気鉄道。明治40年に渋谷～玉川間が開通、開業時から多摩川の砂利を運んでいました。昭和11年東横電鉄が傘下に納めました。

田園都市

実業界の神様といわれた渋谷栄一が主唱者になり、「田園都市株式会社」が創立され、田園調布と洗足を中心に広大な土地を買収して、田園都市を建設しました。渋谷は、緑豊かな郊外に住まいを置き、働く場所と生活の場を別にすることで健康的で明るい家庭生活を営むことを提唱したのです。



『理想的住宅地案内』田園都市株式会社発行(大正11年頃)田園都市の事業や田園都市の交通連絡図などを紹介したパンフレット。"田園郊外の趣味を享受し併て文明の施設を應用出来る地は他にありません"などの売り言葉が入っています。提供:めぐろ歴史資料館

目蒲線

現在の東急目黒線。当時建設された田園都市への交通機関として目黒蒲田電鉄が数かれました。東横線より早く、開業は大正11年で、大正12年には目黒～丸子多摩川～蒲田へ開通しました。この年起こった関東大震災による都心からの多数の人口流出で、目黒地域にも多くの人が移り住み、目蒲線の利用者は大変増加しました。

五島慶太

(明治15年～昭和34年)。鉄道王といわれ、大正から昭和へという激動の時代、一代で東京急行電鉄を筆頭とする、東急グループを築き上げた事業家。



五島慶太 提供:東急電鉄

今回のテーマ

めぐろの街の発展と共にめぐろを走る東横線

今年、2013年3月16日に代官山～渋谷間が地下化されました。開通から80数年、地上の渋谷駅にはたくさんの人々が集まり、東横線が多くの人に愛されていることを改めて印象づけました。

振り返れば、首都東京では、明治末期から大正・昭和初期にかけて次々と郊外電鉄が建設されましたが、目黒地域では、玉電、目蒲線に続き、現在の東急の主たる路線となっている東横線が開通しました。

今回は、目黒区を走る東横線と5つの駅の生い立ちを見てみたいと思います。そこにはどんな経緯やエピソードがあり、そして開通により目黒地域にどのように影響を与えたのでしょうか。



提供:東急電鉄

中目黒

祐天寺

学芸大

都立大

自由が丘

が鉄道利用客を増やすため“学校の誘致”という方策を取ったからです。それは主に学校への土地の無償提供。これは、負担が大きく会社の浮沈にも関わる策で、しかも土地の獲得やあつ旋に伴う苦労もあり、事業家としての五島慶太にとって大勝負だったようです。

こうして東横線の沿線に、学園都市が創り出されていったのです。どこかアカデミックでありながら、親しみやすさも兼ね備えた沿線の雰囲気。そんな現在へと至る目黒の町の性格・気質は、こうした生い立ちと無関係ではないでしょう。

さて、目黒区内にできた中目黒駅、祐天寺駅、碑文谷駅、柿ノ木坂駅、九品仏駅の5駅のうち、駅名の変遷が目まぐるしかったのも誘致校の最寄り駅でした。「学芸大学駅」と「都立大学駅」は、学校制度の変化という時代の流れが生んだ駅名なのです。

〈電鉄がもたらした目黒地域の発展〉

郊外電鉄が通った地域がいかに発展を遂げるようになったかを表わす例があります。住宅の建築棟数です。昭和4年を見ると1829軒、つまりこの年には毎日約5軒ずつ家が増えていったことになります。

東横線の開通は、住居と会社・工場など職場への通勤の便を担い、目黒を典型的な住宅地へと育てました。昭和2年に初めて建設された地下鉄が、十余年を経て浅草から渋谷へ運行されると、自ずと東横線と連絡し、目黒地域は一層都心に近づきました。

このように、東横線の沿線住民の足としての役目は、それ以後も留まる事を知らない進化を遂げていったのです。

「目黒と東横線」重要ワード

学校誘致

鉄道が敷かれる際には“誘致”ということがよく行われます。五島慶太ら電鉄は、特に沿線に学校ができるようはたらきかけました。五島慶太の思惑は、「電車が通る→学校ができる→通学に利用(通勤客とは逆方向の需要でその分もプラスになる)」という図式でした。もちろん周りに商店や住宅が出来、地域が開発されると考えたのです。



『東京都立大学正門』(昭和54年)撮影:香村日出光「都立大」という駅名は、この大学の存在による。

九品仏駅 (現・自由が丘駅)

昭和2年開業の「九品仏駅」は、昭和4年「自由ヶ丘駅」に改称。これは、同年、九品仏浄真寺門前に、大井町線「九品仏駅」が開設されたことからです。当時この地に開校した自由ヶ丘学園の名を取り入れたという住民の運動もあり、「自由ヶ丘」の駅名となりました。昭和40年には「自由が丘駅」に改称しています。

駅名の変遷

碑文谷駅は、近接地に青山師範学校が移転してきたので駅名も「青山師範駅」に変わりましたが、学校制度の変化で、「第一師範駅」に、ついで現在の「学芸大学駅」になりました。柿ノ木坂駅も府立高校が移転してくると「府立高校駅」、都制がしかれると「都立高校駅」へ、さらに戦後「都立大学駅」となったのです。

両校とも今は、以前の最寄り駅から他所に移転していますが、住民の希望により駅名は学校名のままにしました。

住宅の建築棟数

東横線が目黒地域内に走った昭和2年には510軒だった新築住宅は、下記の表が示す通り、その後目覚ましい増加ぶりを見せました。

年次	新築	増築
昭和2年	510	110
3年	826	135
4年	1,829	265
5年	1,582	291
6年	1,295	348
7年	1,163	220
8年	1,115	140
9年	972	118
10年	1,168	129
11年	1,184	154
12年	1,218	120
13年	959	140
14年	991	197

『東京府警視庁統計書』各年より作成

目黒の住宅棟数

目黒と東横線 「駅」と バリエーション の歴史



『日比谷線乗入時の中目黒駅改札』(昭和39年)撮影:関田克孝



『祐天寺駅前』(昭和26年)提供:めぐる歴史資料館



『学芸大学駅ホーム』(昭和35年頃)撮影:宮田道一



『柿ノ木坂駅』(昭和6年頃)撮影:香村日出光



『自由ヶ丘駅ホーム』(昭和34年頃)撮影:高井義平

中目黒

昭和2年中目黒駅開設。周辺に商店街が形成され始めました。昭和39年に地下鉄日比谷線が開通し、都心へのアクセスがさらに向上。昭和63年には目黒区が「中目黒周辺地区整備構想」を策定し再開発に着手。平成14年に中目黒GTがオープンし、今や目黒区のおフィス街の中心地となっています。

昭和2年の東横線開通時に祐天寺駅開設。駅名は、駅から徒歩5分にある同名の古刹から。享保20年(1735)に建立された仁王門(区有形文化財指定)など、開発の続く東横線沿いの中では、今も目黒の歴史を伝える貴重な場所です。

祐天寺

学芸大学

碑文谷駅として昭和2年開設。東横電鉄のあつ旋により青山師範学校(現東京学芸大学)が目黒区近隣の世田谷区下馬に移転され、駅名も学校名に。さらに電鉄利用者拡大の目的で、近くの碑文谷公園には日大プールも誘致。東京学芸大学は昭和39年に小金井市に移転しましたが、今も変わらず若者で賑わっています。

昭和2年開設時は柿ノ木坂駅。東横電鉄のあつ旋により、昭和7年に東京府立高等学校(現首都大学東京)が八雲に移転してきました。そして東京都立大学は駅名にその名を残して、平成3年に八王子へと移転。跡地はめぐろパーシモンホールを擁する「めぐろ区民キャンパス」として親しまれています。

都立大学

自由が丘

昭和2年九品仏駅として開設。大井町線が開通後、昭和4年自由ヶ丘駅に変更。大井町線沿いの芸術学校から芸術家の卵たちが集まるようになりました。昭和40年、自由が丘駅に改称。昭和初期までは竹やぶが広がっていた町は、現在では高級住宅地、お洒落な町として栄えています。



1

東横線のベストビュー スポット

祐天寺1-3の高架沿いは電車が減速して走る上、脇の道が上り坂になっているので電車を間近で見られます。近所の保育園のお散歩スポットでもあり、子ども達にも人気がある場所です。

めぐると東横線

5 トリビア

4

外国人が多かった 中目黒駅周辺

中目黒駅が開設した昭和初期、駅の近くにはアメリカンスクールがあり、中目黒駅周辺や車内は、外国人の小中学生で賑わっていたそうです。その後アメリカンスクールは移転し、跡地に千代田生命本社が誕生。現在は目黒区総合庁舎になっています。

今号の参考文献「目黒区史」・「写真集 目黒の風景いまむかし」・「写真集 目黒の風景100年」・「郷土目黒」・「東京急行電鉄50年史」・「東急・五島慶太の生涯」北原遼三郎・「東横東急全線 歴史散歩」光武敏郎ほか
写真提供：東京急行電鉄、めぐると歴史資料館、香村日出光、関田克孝、富田道一、高井薫平

関連した展示物を見に行こう！

めぐると歴史資料館へ

めぐると歴史資料館の資料閲覧室では、昭和30年代の東横線の写真をパソコンで閲覧することが出来ます。8mmフィルムの映像(撮影：島崎忠範)で、当時の電車からの風景も見られます。

【めぐると歴史資料館】中目黒3-6-10 ☎(3715)3571
交通／東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒」駅下車徒歩12分

2



「手押しで車両を移動」(昭和33年) 撮影：高井薫平

東横線の失われた車窓風景

学芸大学駅から都立大学駅間の線路沿いには、終戦後から昭和43年まで東急碑文谷工場という工場がありました。戦災を受けた電車の車両などを修理する工場、車窓からは工場内で働く人たちが各地から運ばれてきた電車の車両などが見えたそうです。

3

乗ると 幸せになる!? 東横線



提供：東急電鉄

「渋谷ヒカリエ」開業一周年を記念し、東横線の特別仕様車「Shibuya Hikarie号」を1編成運行しています。車体は、「渋谷ヒカリエ」のテーマカラーである「ゴールド」をあしらい、内装も背もたれが通常より高く座り心地アップ。さらに、全車両中の1カ所にハートマークが刻まれた手すりがあります。見つけられたらなにかいい事があるかもしれません。ぜひ探してみてください。

555 幻の “弁天池駅”

1930年代、東横電鉄は、碑文谷池を遊園地とする計画などを立て、現在の学芸大学駅と都立大学駅の間に、「弁天池駅」という駅を新設する構想があったことも。ちなみに碑文谷公園の弁天池のボートの始まりは、1933年の公園開園時に、五島慶太がボートを寄付したことが始まりといわれています。



めぐると観光講座レポート

第14回めぐると観光講座

～まち歩きと「ウェスティングガーデン」の見学～

平成25年5月31日(金)、第14回めぐると観光講座～まち歩きと「ウェスティングガーデン」の見学～を開催しました。参加者は、スタッフを含め27名。梅雨の合間の晴天で、日中の気温は27度まで上がり、初夏を感じさせる天候でした。今回のまち歩きコースは、中目黒駅より、郷さくら美術館→目黒川→目黒区美術館→茶屋坂→アメリカ橋→恵比寿ガーデンプレイス→ウェスティングホテル東京「ウェスティングガーデン」までの約3.3Km。川、坂、橋、と目黒の起伏を感じることでできるコースです。

そして、このコースをご案内したのは、当協会ボランティアガイドの米本豊さん、福田利夫さん、飯塚広美さんの3名。最初の目的地の「郷さくら美術館」では、石井館長のお話と「桜花賞展」※1の鑑賞。目黒川沿いを歩き、「目黒区美術館」では、学芸員の方の解説と「佐脇健一展」※2の鑑賞をしました。

そして、恵比寿方面を目指して、再びまち歩き。勾配が20%と、大変急な茶屋坂をこの暑さの中で上ると、息も上がってしまいます。ここは無理をせず、坂を上り切ったところで小休憩。こんなノンビリなもの、まち歩きのいいところですね。

コースの終着地となったウェスティングホテル東京では、4月19日にOPENした都会の中の緑のオアシス「ウェスティングガーデン」の見学。ガーデンに入った瞬間、爽やかな緑の木々の香

めぐると観光講座は、歴史、産業、文化、自然を通じて、魅力的なめぐるとを再発見する活動です。

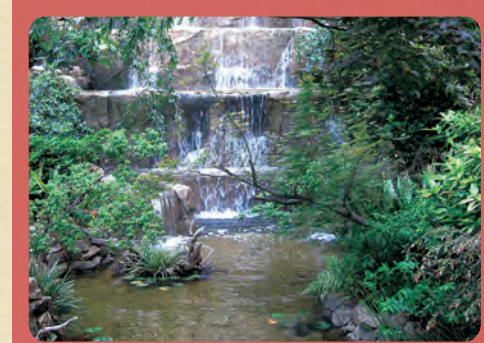
りと小川の流れる音がして涼しく感じました。そして、ホテル内の「ザ・ラウンジ」でティータイムを楽しみ、優雅なひとときを過ごすことができました。参加者の皆様、第14回めぐると観光講座にご参加いただき、誠にありがとうございました。

※1 桜花賞展 現在は、終了しております。
※2 佐脇健一展 現在は、終了しております。



茶屋坂

落語「目黒の秋刀魚」の一節に、鷹狩の途中のお殿様が初めて秋刀魚を食べたとありますが、それがこの場所といわれています。本当にお殿様が秋刀魚を食べたのかはわかりませんが、鷹狩の途中、坂の上にある茶屋で休憩をしたというのは本当のようです。



ウェスティングガーデン

景観アーティスト 石原和幸氏とのコラボレーションによる、渓谷をイメージしたガーデン。場所：ウェスティングホテル東京1階外庭 開園時間：9:00～日没まで